

小坂峠にまつわる話

茶屋で一服。山の幸「竹の子」に舌鼓

弘化2年(1845)、山形藩主の秋元氏が上州館林(群馬県)に国替えとなった時、家臣山田善大夫の妻(昔羽子)が書いた山田昔羽子の「国替絵巻」によると、「小坂宿でできた竹の子の煮付けが珍しかった」という記述を見つかることができます。急峻な峠を下りた後の楽しい食事が目に浮かびますね。

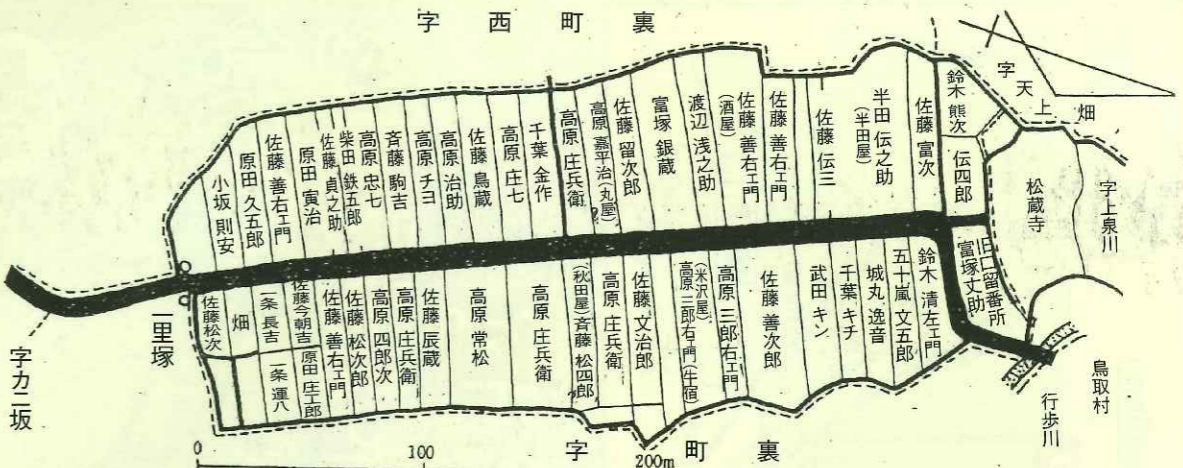
お産の苦しみと同じくらいキツイ!

産坂の名の由来は、急坂を登る辛さがお産の苦しみと同じくらいあることからきています。天正7年(1579)11月、米沢の伊達政宗に嫁入れた三善城主田村清隆の息女、愛姫もこの峠を越えて米沢へ向かいました。この時代、見知らぬ土地への旅行は一生に一度あるかないか。愛姫はどんな気持ちで産坂を登ったのでしょうか。

小坂宿町割図

小坂宿は、町の長さか約三丁(約330m)、屋敷割は57戸あったと伝えられています。検断*、問屋は世襲ではなく時期により異なりました。現在も小坂宿を歩くと、当時の風情をそのままに残す立派な家屋を見ることが出来ます。

*検断…宿町の取締りにあたった役人



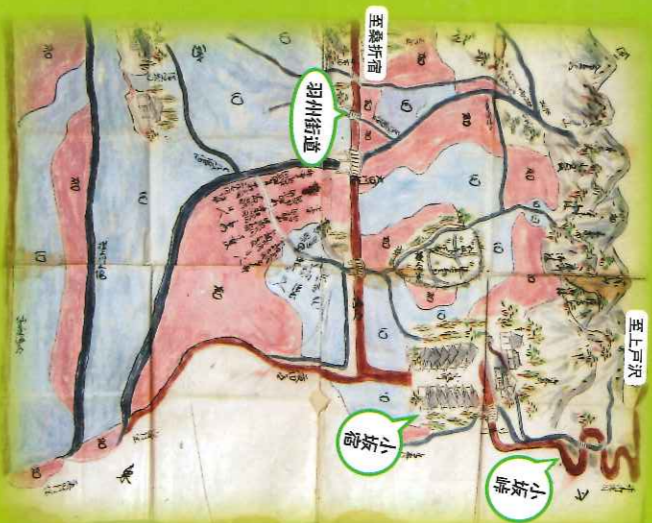
※明治17年 小坂村地籍図
※小坂宿のポイントは中面マップ参照

お問合せ先

福島県国見町役場
TEL.024-585-2971(建設課)
福島県東北建設事務所 企画調査グループ
TEL.024-521-7642

企画制作 / 福島県東北建設事務所
(株) 個別測量設計事務所
(株) 建和カリエイティブセンター
監修 / 福島県国見町役場
小坂まちづくりの会
発行 / 2006年3月

羽州街道 小坂宿・小坂峠を歩こう



小坂村絵図
(福島県歴史資料館所蔵)
小坂宿に至る羽州街道にはすべて橋が架けられており、当時から往来が盛んであったことがよく分かります。

マップA ※絵図のエリアは中面マップ参照

福島県国見町
福島県東北建設事務所
小坂まちづくりの会

羽州街道小坂宿とは…

街道。それは町を行き交う人々の賑わいを記憶し続けている。町の宝物。福島県国見町の北西を走る羽州街道は、江戸時代初期に秋田藩主の佐竹氏によって修復がなされ、「小坂通り秋田道」とも呼ばれています。羽州街道最初の宿場である「小坂宿」には、米沢屋、秋田屋、丸屋、半田屋などの旅館が置かれ、通行人はここで旅の労を癒し、北はセウ宿、南は桑折宿へと向かったのです。



自然



小坂宿と一緒に訪ねたいのは、季節ごとに彩りを変えるまちの田園風景。信達平野の澄んだ水辺で野生のホタルを見つめることができますかもし?

人



宿場町として長い歴史を刻んだ小坂には、おもてなしの心があふれています。福島ならではの方言も小坂のあたたかい魅力のひとつです。

訪ねるほどに魅力がくらむ小坂のまち



まずは小坂峠の頂上までクルマで駆け上がり、みてください。そこから望む信達平野。春には可愛らしい桃の花々が目立ってきます。



桃、プラム、生柿、サクランボなど、もぎたて果実を丸ごと召し上がれ。おいしさはどれも保証つきです。

果物

■小坂峠羽州街道変遷図

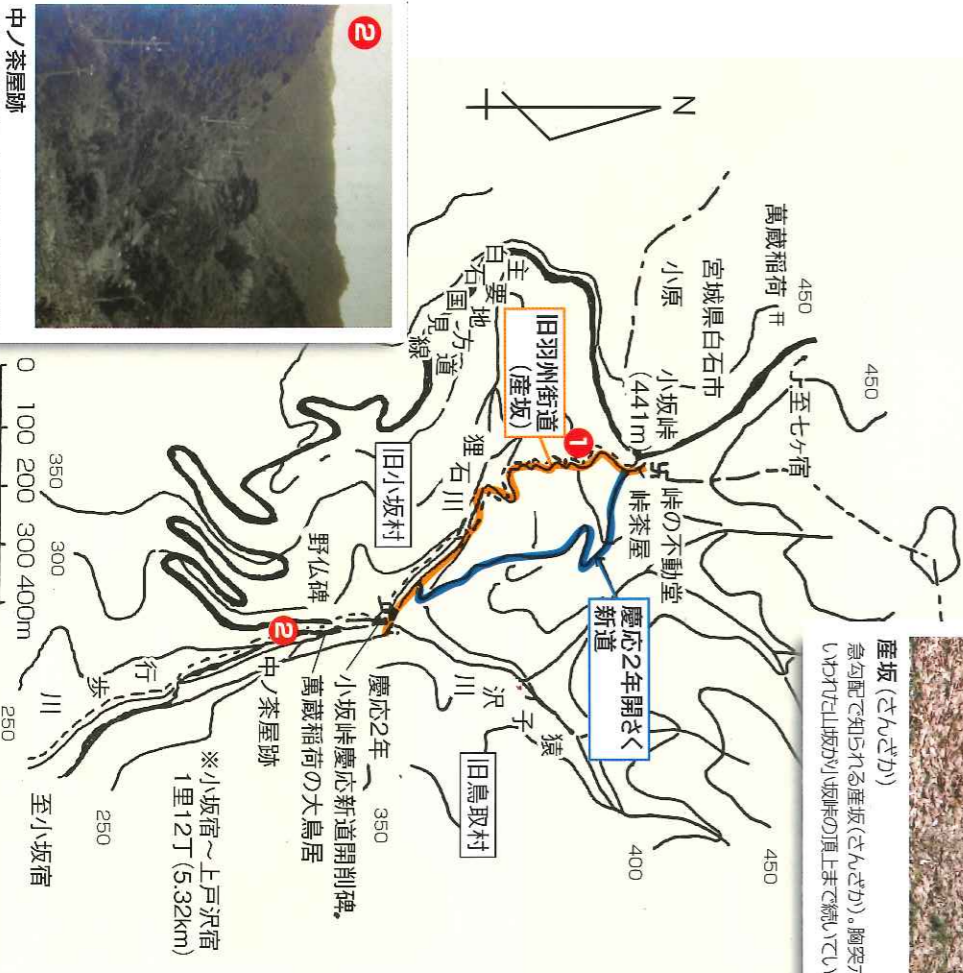
明治維新以降の旧羽州街道は、萬世大路(後の国道13号)や奥羽線(奥羽本線)の開通にともない、交通の流れが栗子峠越えと大きく変わり、地形が険しい金山・小坂峠を通過する羽州街道は取り残され、衰退していききました。

戦後は中ノ茶屋跡から西に大きく迂回して峠に達する舗装された自動車道に整備され、当地から山形方面への近道として活用されています。

(ひるさとの文化財 / 史料:旧羽州街道小坂峠遺跡(菊池利雄))



1 産坂(さんざか)
急勾配で知られる産坂(さんざか)。胸突穴といわれる山坂が小坂峠の頂上まで続いています。



2 中ノ茶屋跡
峠の中ほどにあった茶屋跡。写真は昭和15年当時のもの。難所を抜けてようやく一息つける安らぎの場所でした。

マップB ※小坂峠のエリアは中面マップ参照

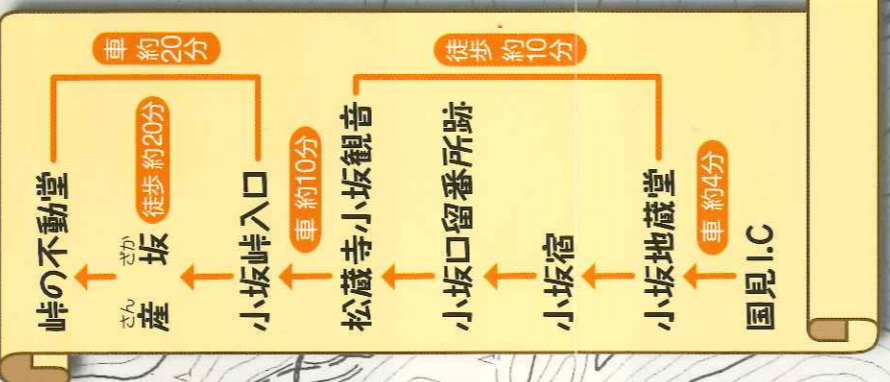


小坂峠より信達平野を望む
奥羽諸藩の大名たちが小坂峠の頂上からこの風景を見下ろしました。



萬蔵稻荷(白石市)
小坂峠の頂上を越えた所にある神社。
鳥居のトンネルが真まで!

羽州街道 小坂宿・小坂峠を歩こう!



峠の不動堂
この街道を通る旅人が安全を祈願したお堂。佐竹氏が寄進したといわれています。

小坂峠入口の水車
小坂峠の看板が立っています。

松蔵寺小坂観音
当観音は伊達成宗公の奇進といわれています。

伊達成宗の墓
伊達氏十二代成宗公の墓跡が残されています。

小坂口留番所跡
小坂峠の出口には、かつて関所が設けられていました。

鳥取観音
小坂宿に先行した中世の情緒で、関所があったといわれています。

萬蔵稻荷の大鳥居
鳥居をくぐって小坂峠へ。

番所役は世襲制でした

信達三十三観音 第21番札所

あたりはのどかな果樹園です

小坂宿の町割図は、裏表紙をご覧ください。

野生のホテルをよみがらせる地域活動が継続中。

半田銀山二階平坑口跡
平成10年の集中豪雨で倒壊しましたが、現在は修復されました。

花文字
平成18年「小坂まちづくりの会」により設置されました。

昔はイグネ(屋敷林)が広がり、周囲は真つ暗でした。

昔はここに鍛冶屋があり、早朝から金属を叩く音が響いていました。

水田を流れる小川はかつてハツタラ川と呼ばれていました。

泉秀寺山門
明治5年、この地域の学校発祥の地。

泉田山台茶屋跡

半田山自然公園 (雑種)
日本三大銀山のひとつに数えられた半田銀山跡は、今では公園として整備されています。春の桜や新緑、秋の紅葉など四季の美しい自然を楽しむアウトラドの楽園として県北一円から多くの人が訪れます。

小坂地藏堂
昔は11月に地藏を箱の車に乗せて桑折の方まで巡行する祭りが行われていました。

小坂探訪のスタート地点!

記念撮影は小坂宿で!

深山神社
樹齢500年以上の大カヤに大藤がからみ、開花朝は見事。

5月上旬が見頃!

